



# 市民病院だより 新緑号

財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価 Ver. 5.0 認定 JC1079 号

平塚市民病院 〒254-0065 平塚市南原1-19-1 0463-32-0015

## 血管外科外来開設しました！！

平塚市民病院外科（血管） 藤村直樹

みなさん、こんにちは！！ 今年度4月に慶應義塾大学病院から赴任し、血管外科外来を新しく開設しました藤村直樹です。

早速ですが、みなさん血管外科って知ってますか？ あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、言葉の通り血管の手術を行う外科のことです。心臓血管外科と違い、心臓以外の末梢血管を中心に扱っており、大学病院や都市部の総合病院にはありますが、まだあまり普及しているとはいえません。



最近では、患者さんにやさしい血管内治療が進歩してきており、その診療内容もここ10年間で大きく変わってきております。今日はその血管外科が取り扱う代表的な疾患で、当科が力を入れている低侵襲治療について簡単に説明していきたいと思っております。



### 市民病院の理念「安全と信頼」

患者さまの視点に立ち、安全で、信頼される、地域に根ざした医療を提供するとともに、健全な病院運営に努めます

#### 基本方針

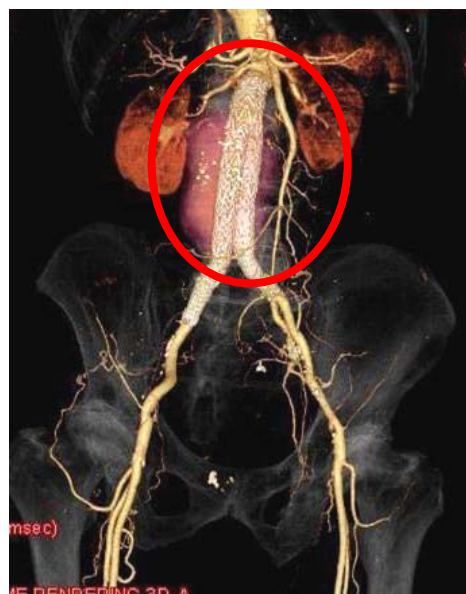
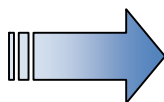
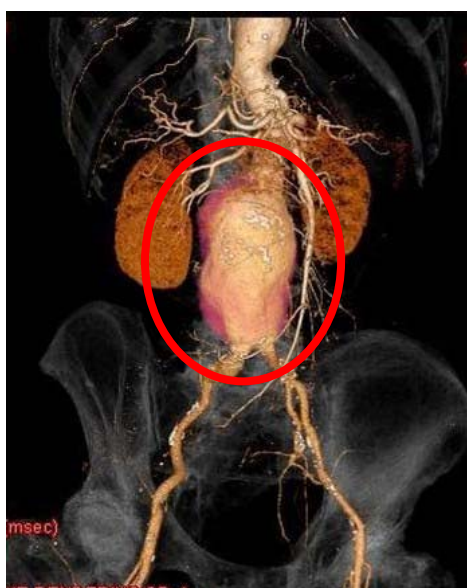
病院の理念のもと、基本方針を次のように掲げます

- |  |   |
|--|---|
| <p><b>1 患者さまの視点に立った医療を提供します</b><br/>患者さまへの十分な説明と同意のもとに、医療を提供します<br/>患者さまへの診療情報の提供を、積極的に行います<br/>患者さまの権利を尊重し、患者中心の全人的医療を提供します</p> | <p><b>3 地域に根ざした医療を展開します</b><br/>地域の中核病院として、高度医療・救急医療の充実に努めます<br/>地域の医療機関との連携を推進し、地域医療に貢献します</p> |
| <p><b>2 安全で信頼される医療を提供します</b><br/>安心して医療が受けられるよう、院内環境の整備に努めます<br/>高度で良質な医療水準を確保し、地域住民に提供します<br/>医療者の教育・研修に努め、確実な診断、治療を提供します</p>   | <p><b>4 病院経営の健全性の向上を図ります</b><br/>公共の利益を確保するとともに、効率的な病院運営に努め、健全化を図ります</p>                        |

# 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療

**腹部大動脈瘤とは、** お腹の中の一番太い動脈がふくらんで瘤（こぶ）を形成する病気です。通常無症状で、気が付かない内にどんどん大きくなり、一旦破裂してしまうと、突然激痛が生じ、死に至ることが多い恐ろしい病気です。

今まではこの破裂の予防のためにお腹を切って腹部大動脈瘤を人工血管に取り換える手術が行われてきましたが、2007年4月から日本でもステントグラフトを用いた治療が可能となりました。



<治療前 腹部大動脈瘤>

<ステントグラフト治療後>

**ステントグラフト治療とは、** お腹を切らずにカテーテルを用いて血管の内側から腹部大動脈瘤を治療するもので、創が小さく患者さんの負担が大きく減りました。残念ながら腹部大動脈瘤の形や部位などの問題で、全ての患者さんに適応となるわけではありません。当科では患者さんの状態と病変部の形や部位をしっかりと把握した上で、最適な治療を提供しております。



<ステントグラフト創部>



<開腹手術の創部>

# 閉塞性動脈硬化症に対する血管内治療

閉塞性動脈硬化症とは動脈硬化のため、動脈がつまったり、狭くなったりして症状が出現する病気です。危険因子としては高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙、透析などがあげられます。症状は病変部位によって異なりますが、下肢に生じることが最も多く、歩くとふくらはぎのあたりが痛くなり、しばらく休むとまた歩けるようになる間欠性跛行が出現します。



症状が進行してしまうと、じっとしていても痛くなり（安静時痛）、さらに進行すると足の壊疽などが出現します。

## 各々の患者さんに見合った適切な治療法の提供を目指しています

今までは外科的バイパス術が治療の中心でしたが、最近はカテーテルによる血管内治療が増えています。カテーテルによる血管内治療は局所麻酔下に行い、創も付かない



①血管の狭くなった部分にバルーンカテーテルを挿入。



②バルーンカテーテルを拡張して血管を押し広げる。



③血管は拡張したままとなる。

ため、患者さんに優しい治療として増えてきておりますが、こちらも残念ながら現段階では全ての患者さんに適応することはできません。

無理にこの治療を行うことにより様々なトラブルが生じることが報告されており、場合によっては不必要な下肢の切断に至ることもあります。これらの不必要なトラブルを避けるためには、外科的バイパス手術と血管内治療それぞれの長所と短所をよく理解し、患者さんの状態と病変部の解剖および性状をしっかりと把握したうえで、治療のプランを立てることが必要です。

<血管内治療の模式図 >

当科では、外科的バイパス術と血管内治療の両方を行っており、各々の患者さんに見合った適切な治療法を提供することを目指しています。

# 局所麻酔下の静脈瘤手術

静脈は手足から心臓に向かって血液を戻す役割を担っていますが、血液の流れの向きが一定になるように逆流を防止する「弁」が備わっています。これらの「弁」が壊れてしまい、逆流が生じて静脈が膨らんでしまうのが静脈瘤です。



無症状で血管だけ浮き出ていることもあります。一般的な症状としては足がだるくて疲れやすい、むくむ、寝ているときにつる、黒っぽい色がついてかゆい、静脈炎がおきて痛い、なかなか治らない潰瘍があげられます。

下肢静脈瘤自体は生死にかかわるような悪性の病気ではありませんし、下肢の切断につながるようなこともありません。しかし徐々に進行していく慢性疾患であり、患者さんと症状を相談しながら希望に応じて治療を行っております。

保存的治療としては弾性ストッキング着用による圧迫療法がありますが、希望があれば注射による硬化療法、外科的手術として静脈抜去術（ストリッピング手術）や高位結紮術を行っております。当科では標準的治療として静脈抜去術を採用しておりますが、以前のような下半身麻酔でなく、より低侵襲で、日帰り治療も可能な局所麻酔を用いた静脈抜去術を行っております。

## 血管外科外来のご案内

当科では患者さんに優しい治療を積極的に行っております

お困りのことがあれば、いつでもご相談ください

診療日 : 月曜日午後 ・ 木曜日午前

場所 : 外科外来診察室 1 番

問い合わせ先 : 平塚市民病院 外科外来

TEL : 0463-32-0015 (内線 2101)

FAX : 0463-31-2847